

2015年3月期決算・新中期経営計画 2017
IR説明会(2015/05/08開催)質疑応答内容

Q: 2015年度見通しと新中期経営計画最終年度の収益見通しに関して、その達成確度について見解をうかがいたい。

A: 2015年度の当期純利益見通し 400億円については、自動車本部と石炭・金属本部が収益改善するという、ある程度はつきりした材料がある。この2本部が見通し通りの収益をリアライズすれば、全体として概ねマネージできると考えている。また、最終年度当期純利益見通し 600億円については、赤字事業の改善に加え、既存事業の伸長が一番大きな伸び代となる。

Q: 新中期経営計画における配当政策については、増配、ならびに配当性向25%と、株主還元拡充の計画を発表されたが、収益計画が未達となった場合、今年度予想の8円配当をどのように考えるべきか。

A: 基本的に安定的かつ継続的な配当を念頭に株主様にお応えしていくことを考えているが、配当性向が計算通り 25%にならない場合もありえる。仮に当期純利益 400億円が未達となった場合でも、全体を取り巻く環境と、その後の業績をある程度見ていくことが必要になる。

Q: 新中期経営計画での投融資額 3,000億円の考え方について教えてほしい。

A: 今までは低採算の資産から資産効率の良いアセットへ資産入替を行うことで、一定の安定基盤が確立できた。今後は、従来の投融資より金額を増やすことでリターンを上げていく。その中で、それぞれの本部で取り組むべき具体的なターゲティングを一つ一つ行い、資金を割り振った。当社が強みを持つものを更に強化・拡大するために、新しい投資も、今ある機能を使い、強いビジネスを作れると関連付けられることを条件として投融資を実行することとしている。

Q: 双日らしさという表現がいくつか出てきているが、会社が考える双日らしさの確立・発揮についてもう少し具体的に教えてほしい。例えば、他商社と比べて何が違うのか。

A: 当社の特色として、強みがある事業がより強くなるというイメージを湧くようにしたい。それぞれの本部で、当社はこのような機能等を持つため、この事業を行うことが可能であると説明できるようなビジネスを作っていきたい。それが双日らしさの一種だと考えており、どれだけの先見性とスピードをもってそれを実行するかが勝負になると思う。

Q: CF計画で、新中期経営計画でのフリー・キャッシュ・フローの組み立て、バランスについて教えてほしい。

A: 前中期経営計画におけるフリー・キャッシュ・フローは累計で900億円の収入。新中期経営計画における投融資計画3,000億円に対し、この900億円に加え、期間損益、ネット営業資産もある程度使っていく計画としている。最終的には現預金300~400億円を取崩し、グロス有利子負債は最終年度にかけて300~400億円増加する想定。その結果、新中期経営計画3年間のフリー・キャッシュ・フローは300~400億円のマイナスとなる。ただ、前中期経営計画からの累計でみた場合は、黒字を維持する。

Q: 15/3期は合金鉄および石油権益で▲170億円程度の減損処理を行ったが、更なる減損リスクに対する考え方を教えてほしい。

A: 基本的にできる処理は全て行った。今後減損の懸念があるのかという問いに対しては、極めて限定的で、当社が前提としている価格の範囲において大きな減損の懸念があるものは無い。

以上